

八幡地域ビジョン(概要版)

八幡地域の現状



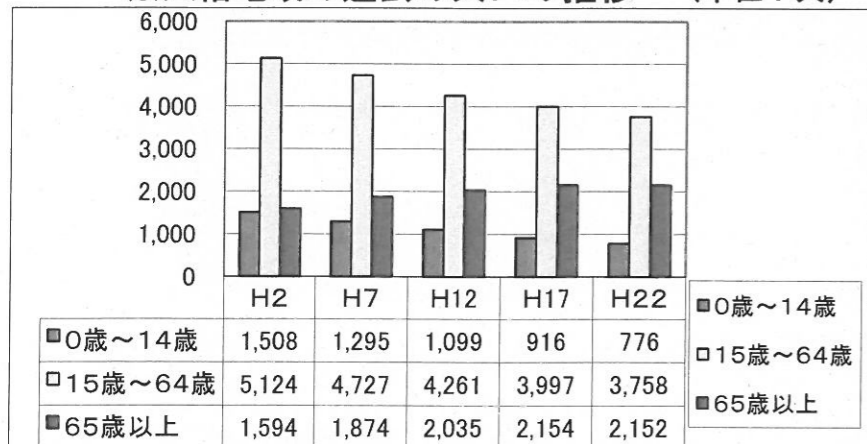
人口

八幡地域の人口は、平成22年3月31日現在6,686人(住民記録台帳)で、平成2年に比べ1,540人程減っており、今後も減少すると予測されています。また高齢化比率(65歳以上の割合)は平成2年で19.4%、平成22年で32.2%になっており今後も上昇すると見込まれています。

【※高齢化比率=(65歳以上÷総人口)×100】

【※少子化比率=(14歳以下÷総人口)×100】

※八幡地域の過去の人口の推移 (単位:人)



※注 H2～H17は国勢調査の数値、H22は住民記録台帳の参考数値

八幡の総人口(人)	
平成2年	8,226
平成7年	7,896
平成12年	7,395
平成17年	7,067
平成22年	6,686

八幡の高齢化比率(%)	八幡の少子化比率(%)
平成2年 19.4	平成2年 18.3
平成7年 23.7	平成7年 16.4
平成12年 27.5	平成12年 14.9
平成17年 30.5	平成17年 13.0
平成22年 32.2	平成22年 11.6

参考:酒田市全体の高齢化・少子化比率

酒田の高齢化比率(%)	酒田の少子化比率(%)
平成22年 28.3	平成22年 12.7

産業

八幡地域は鳥海山からの恵まれた水源と地形を生かした伝統ある良質米地帯であり、多種多様な農産物の生産地帯でもあります。一方で、農林業全体で担い手の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。また若手労働者の地元就労が少なく、消費動向も他地域の大型店に流れている現状があります。観光面では、鳥海山・玉簾の滝・八森温泉を中心とした八幡地域の観光客数は近年ほぼ横ばいの状況です。



医療・福祉

地域内唯一の市立八幡病院が存在、救急告示病院として急患の受け入れも行っています。高齢者世帯等においては、買い物、通院や除雪等で生活不便をきたすケースの対処や、子どもを生み育てやすい環境づくりの推進が求められています。市民の健康・生活上の問題の解決を図るため、保健・福祉・医療の各分野が連携し、地域が一体となった一層の取り組みが必要です。



生活環境

本地域は、中心部の他に山間山麓地帯に集落が点在し、これまで幾多の災害を克服しながら生活基盤を培ってきましたが、今でもなお自然災害時には、がけ崩れや小河川の氾濫、土砂流出等の被害が発生する危険があります。地域住民が安全で安心して暮らせるよう、消防、防災及び防犯対策の一層の推進が求められています。



八幡地域の魅力

豊かな水、地形を生かした高品質な農産物

身近にある豊かな自然資源と清流

自然に囲まれた温泉とスポーツ広場

文化を持ち続けている、やすらぎのあるまち

四季折々が魅力の鳥海山と玉簾の滝

学校や病院等、まとまった施設が存在



八幡地域の課題

人口 本地域では0歳から14歳の年少人口が大幅に減少しており、急速に進む少子高齢化対策と共に、若年者に向けた定住・移住対策が必要です。

産業 農林業における後継者の育成や生産物の付加価値向上、農商工連携による特産品・加工品の開発、鳥海山や自然資源を活用した観光産業の更なる育成が必要です。

福祉 地域の住民を取り巻く生活環境をより良いものにしてゆくために、保健・福祉・医療の関係機関が連携し、地域が一体となったケア体制の整備が必要です。

教育 地域の人々が相互に支え合い力を発揮し合う活動の推進や、芸術文化の発表や交流の場の拡充、ボランティア団体等への支援、鳥海山の自然資源を生かした教育の推進が必要です。

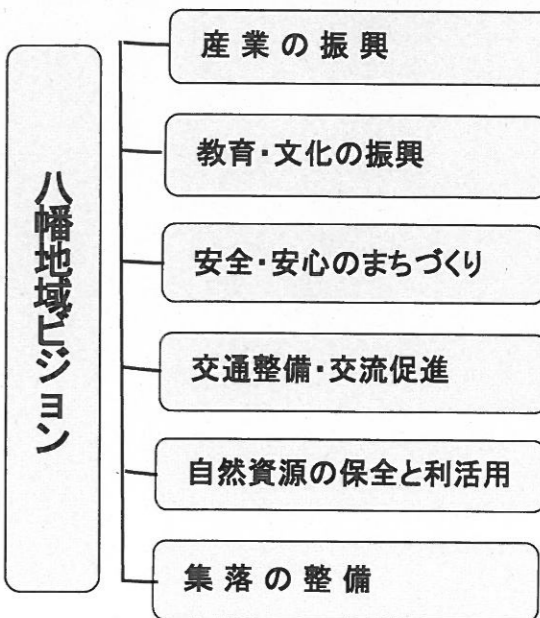
道路・交通 国道等主要道の整備促進、地域のニーズを踏まえた新たな交通体系の導入が必要です。

生活環境 自然災害時のがけ崩れ、河川の氾濫、土砂流出等、地域住民が安全で安心して暮らせるよう更なる消防及び防災、防犯対策の推進が必要です。



魅力ある地域づくりに向けて

人々が愛してやまない八幡の豊かな自然。山麓一帯に美しい集落が点在し「全国水の郷百選」に選ばれたおいしい水と高原のまち「やわた」。日向川、荒瀬川の清流が多くの良質な農作物をもたらす。地域内には温泉や観光施設及び住民の暮らしに欠かせない商業施設や医療・福祉施設、学校など多方面の施設が存在し、また多種多様な文化・スポーツ団体があります。そしてそれらの地域資源を活かし支えてくれる多くの人材がおります。しかし一方で人口減少、少子高齢化、経済不況など地域を取り巻く環境は厳しいものがあり、私達はこうした状況に向き合い、より良い地域づくりを進めていかなければなりません。地域資源を有効に活用した産業振興と基盤整備、福祉の充実、若者が定住する活力ある地域づくりに地域の総力を結集して取り組む必要があります。地域の現状、課題、魅力による八幡の地域づくりに向けて6つのビジョンを示します。



産業の振興

若者にとって魅力のある地域づくり

本地域は地形を生かした伝統ある良質米地帯であり、それを基本にしながら花や果樹など農業の園芸への拡大による複合経営の推進、産直活動や地域資源を活用した加工品への取り組みを推進します。また、農林業や商工業などの地場産業の振興と起業による産業の活性化及び農商工連携による消費者ニーズを踏まえた特産品開発や生産、流通を含め地域ブランドの確立を図ります。さらに、農業の後継者不足の対策として農作業の共同化や集落営農組織の充実を図ります。鳥海山、豊かな水と森の資源、多種多様な農業生産物など地域資源を総合的に生かした取り組みや耕蓄連携による循環型農業等の地域の魅力発信を行うことで、地場産業の振興と就労の場の確保、各産業分野の所得向上を目指し、若者にとって魅力がある地域づくりを推進します。また、八幡地域固有の自然資源を活用した観光資源に磨きをかけ、既存施設の充実とインフラ整備、情報の受発信による交流人口の拡大を目指します。

- ①地場産業の振興と就労の場の確保
- ②農業の複合経営化の推進
- ③農商工連携による新規産業、特産品の開発
- ④自然資源を活用した観光資源、施設の磨き上げ
- ⑤産直活動促進による農業の6次産業化の推進

- 特産品の商品化開発支援や企業化のソフト支援
- 首都圏へ向けた地場産品のPR
- 鳥海山観光を軸とした魅力ある地域の情報発信

交通整備・交流促進

交流を活かした地域づくり

安全で快適な交通環境と市民生活の利便性を高めるため、主要道路や情報通信施設等を整備し、生活利便性の向上を図ります。また、明るく安全な街並みをつくるため、交通安全施設の改修や防雪柵等の整備を進めます。交通手段を持たない児童や高齢者等が円滑に通学や医療及び福祉施設へ移動が出来るよう、福祉乗り合いバスやデマンドタクシーなど市民の日常的な移動手段の確保を図ります。さらに鳥海山や各観光施設の情報発信や案内機能の維持向上等を図り、交流人口を拡大し、地域間交流を生かした地域づくりを進めます。林道整備については、森林の適正な管理と森林施業の共同化、機械化による低コスト化を図り、計画的に林道整備を進めます。

- ①一般国道・県道及び主要市道等の整備促進
- ②地域のニーズを踏まえた交通体系の導入
- ③除雪機械及び防雪柵等の整備促進

- 日向・大沢地区の高齢者等の交通手段の検討
- 国道344号安田バイパスの整備促進
- 通学路を中心とした防雪柵、防犯灯の設置

教育・文化の振興

のびやかで誇りの持てる地域づくり

八幡の地域で長年培われてきた歴史や文化を大切にしたい個性あるまちづくりと、人々のつながり、集落の知恵、子どもを育む教育力などを大事に育てて発展させ、また、「いつでも」「どこでも」「だれでも」参加出来る生涯学習や生涯スポーツ、芸術文化活動に親しめるまちづくりを進めます。さらに、ボランティア等との協働で地域のニーズに合った各種講座の開催や市民の健康づくりのため、ひとり1スポーツを推進します。また、八幡地域には由緒ある神社仏閣が数多く、地域の人々は、そこに伝わる祭り行事や自然の恵みに感謝する先人の思いをつなぐ郷土芸能を今も大切に守り伝えており、そうした文化、伝統の継承や自然とのふれあい等、地域と子どもたちとのかかわりを大切にして、サポートする仕組みや活動を検討し、子ども達への長い目で見た環境づくりを図ります。

- ①家庭・学校・地域の連携による教育の充実
- ②芸術文化、ボランティアの推進
- ③生涯スポーツの推進
- ④民俗伝統芸能活動への支援

- 芸術文化の鑑賞及び発表交流の場の拡充
- 地域と子ども達とのふれあい活動への支援
- 総合型地域スポーツクラブの育成支援

自然資源の保全と利活用

環境と共生する地域づくり

市街地から八幡を訪れた人々の多くが自然環境のすばらしさを口にします。人々が愛してやまない八幡の豊かな自然。また、そこには多種多様な動植物の姿を目にすることが出来ます。その象徴でもあり、市の鳥となっているイヌワシは自然が豊かな場所にだけ生息することができる貴重な鳥です。そのような自然環境を保ち、かけがえのない豊かな自然が生み出す安らぎを未来に継承させると共に、本地域においては、自然資源の利活用や保存活動を行う自主的な地域づくり団体やNPO団体などが地域活動やボランティア活動を展開しており、市民と行政のパートナーシップによる協働のまちづくりと相互連携が必要です。さらに適正な生活雑排水の処理など、環境にやさしい快適で潤いのある生活空間の創造を推進します。

- ①自然環境の保全と利活用を推進
- ②市民と行政の協働のまちづくり
- ③環境にやさしい潤いのある生活空間の創造
- ④家族旅行村を活用した小学校自然体験学習の推進
- ⑤猛禽類保護センターの効果的な利活用

- 「森林浴コース」の開発等、自然公園の有効活用
- 日向川・荒瀬川の清流保全など自然環境の保護
- 鳥海山をフィールドに小学校自然体験学習の推進

安全・安心のまちづくり

いきいきと笑顔が輝く地域づくり

防災、消防、防犯の施策を総合的に展開すると共に、自然災害から尊い市民の生命と財産を守るため、事態を想定したマニュアルの作成や市民への正確な情報の周知等、消防、救急体制を充実させ、災害に備えて安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、住み慣れた地域でいつまでも元気でいきいきと暮らせるように、保健・福祉・医療が連携し、地域で支え合い元気あふれる環境づくりを図ります。さらに、災害時に保育園等へ地域の人々の協力隊の設置の検討や、近隣の自治会同士が災害時に協力し合い共生共立できるよう地域の人が相互に支え合う活動を推進します。また、高齢者等に対するの見守り、通院、買い物、除雪など日常生活を支援するシステムを構築します。さらに子育てをみんなで支えるまちを実現するため、子どもを生み育てやすい環境づくりを推進します。

- ①安全・安心に暮らせる防災・消防・防犯の推進
- ②保健・福祉・医療の連携体制の構築
- ③健康でいきいきと暮らせる地域福祉のネットワークの構築
- ④子どもを生み育てやすい環境づくり

- 自主防災組織の育成や保育園等への協力隊の設置
- がん検診等の受診率の向上と保健指導の充実
- 学童保育、延長・日曜保育の充実

集落の整備

地域活動の振興による地域づくり

現在、地区単位の地域活動は、人口減少、少子高齢化によるマンパワー不足により集落周辺や生活道路の維持管理及び高齢者世帯の雪おろし等で厳しい環境になっているため、地域おこし協力隊、集落支援員、ボランティア、NPO団体、大学等と協力して、地域課題の解決に向けた取り組みを行う必要があります。さらに、地域コミュニティの担い手を育成するために、各組織等と連携して若い世代の活動を支援する必要があります。近年では、高齢者世帯が生活不便のために、施設に入所するケースや身内等の居住地に転居するケースが見られ、それに伴う残された空き家等の管理対策や、定住・移住の受入れによる有効活用の検討が必要になっています。また、交通弱者対策や里山・山村集落などが持つ、地域特有の豊かな資源を生かした交流を展開し、地域の交流の場づくりの推進を図ります。

- ①地域おこし協力隊やNPO団体等のマンパワーの活用
- ②空き家・空き地の有効利用と移住・定住の促進
- ③若者の出会いや交流の場づくりの推進
- ④自治会集会施設の整備の支援

- コミュニティ振興会の組織、運営への支援
- 里山集落と若者等との交流促進（公益大等）
- 高齢者等への草の根ネットワークや除雪協力員等の検討